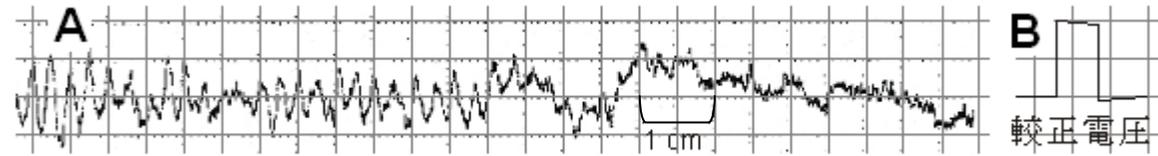


番号 _____ 名前 _____

記述問題でスペースが足りない場合は、裏面を用いても構わない。

I. 下の図 A は実習で記録した脳波、B は校正電圧の記録である。



1) 図 A に、横と縦の目盛りを書き入れなさい。図には 5mm 間隔のマス目が入っている。(2 点)

2) A の脳波記録の一部分で、α 波が観察される。α 波が連続して 3 周期以上出現している部分をマークし、以下の表を埋めてその部分の周波数を求めなさい。何箇所か出ている場合は、どこか一箇所を用いればよい。(3 点)

α 波が出現している時間(s)	出現している α 波の周期数(周期)	周波数(Hz)

3) 上の波形を記録したときの検査条件は、以下のどの条件か。下線を引いた選択肢の中から、実習で用いた条件を選び、○で囲みなさい。(表は次ページに続く) (2 点)

低域遮断フィルター(Hz)	高域遮断フィルター(Hz)	感度(μ V/DIV)	紙送り速度(mm/s)
<u>0.5、5、15、50</u>	30	50	25

電極位置	
導出電極(-)	基準電極(+)
<u>前額、Cz、C3、Pz</u>	耳朵

4) 記録 A は、どの実習項目で得られた記録と考えられるか。いくつか考えられる場合は、最も当てはまる一つを答え、そのように判断した理由を述べなさい。(3 点)

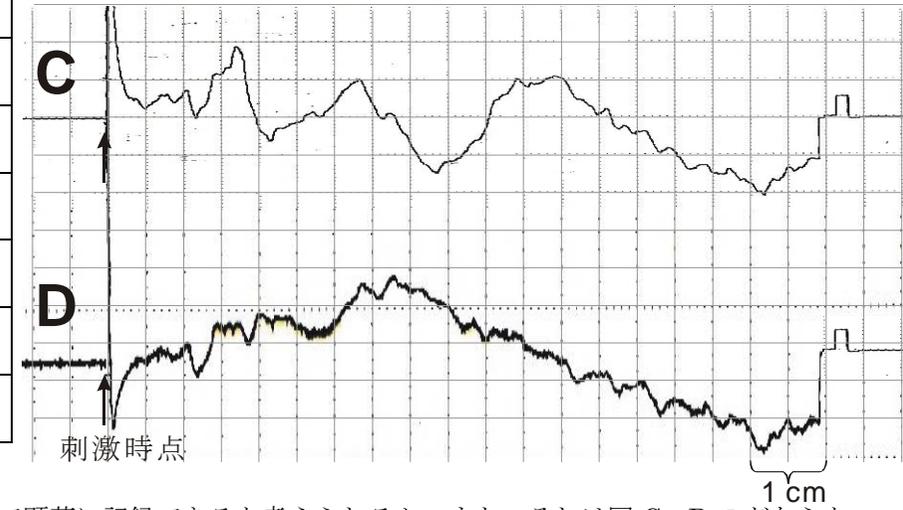
実習項目 (内容) : _____

判断理由 :

5) 脳波検査を患者さんで行う場合、検査中の注意点としてどのような説明をしなければならないか。また、なぜその様な説明をする必要があるか、述べなさい。(3 点)

II. 下の記録は、実習で記録された体性感覚誘発脳波です。なお記録は下表の検査条件で、左右脳上から同時に行っています。なおもう一度行った加算でも、同様の波形が記録された。

検査条件	
感度	10 μ V
Low cut filter	0.5 Hz
High cut filter	1k Hz
解析時間	100 msec
紙送り速度	50 mm/s
正中神経刺激	左手首



1) 誘発脳波は、左右どちら側で顕著に記録できると考えられるか。また、それは図 C、D のどちらと考慮されるか。適切な方に、○をつけなさい。(2 点) 記録側 (左脳、右脳) 図 (C、D)

2) 記録条件を参考に、上の記録に横目盛り、縦目盛りを入れなさい。縦目盛りに関しては、どのように決定したか分かるように書きこむこと。なお記録には、実習中と同様、感度の 1/10 の校正電圧が入っている(2 点)。

3) 上の 1) で選んだ記録に、右表のピークが見られるか。見られる場合は記録にピークを示すマークを入れ、表に潜時(刺激からの時間)を書き入れなさい。ピークが見られない場合は、表に「不明」と書き入れよ (3 点)。

ピーク	N ₂₀	P ₂₅	N ₃₅
潜時 (msec)			

4) 表のピークは、脳のどの部位の活動を反映すると考えられているか。(2 点)

解答 (_____)

5) この記録を得るのに用いた、(平均) 加算法について説明しなさい。どのような方法か、なぜそのような方法を用いる必要があるかを述べること。(3 点)